

里山だより



60

はしもと里山保全アクションチーム活動報告
2016年10月～2017年3月

10月5日（土） 芋掘り

9時から 時まで、山内の畑でさつまいもの収穫をおこないました。連日の好天で、土はよく乾いていたため、掘りやすくよかったです。さつまいものつるを皆で頑張って切りました。畑全体を覆う「マルチ」も取り、翌日に続く芋掘りにも備えました。一汗も二汗もかいた半日でした。

（参加者：嶋村勝、澤田、大和田、楨野）



10月6日（日） 芋掘り

前日同様の好天の中、今日も芋掘りをしました。

大人達は主に土を掘り起こし、子供たちが顔を出したさつまいも掘り起こしてくれました。コンテナに二杯分のさつまいもが掘れました。

皆さんに召し上がっていただく他、「ナチュラルブレイク」で焼き芋にしたいと思います。

（註：「ナチュラルブレイク」では大変なご好評をいただいたこともあり、在庫が払底し、「まなびの日」では焼き芋は販売しませんでした。）

その後、黒豆畑の整理も行いました。

一週間ほど前に澤田さんに抜いていただいた黒豆の殻を燃やし、畑の雑草を取り除きました。

（参加者：嶋村勝、澤田、山岸、真壁、楨野、楨野家族（大人 名子供 名））

10月30日（日） ナチュラルブレイク（7時30分～15時）

秋晴れの杉村公園で、ナチュラルブレイクが開かれました。

人を超す地元の方々訪れてくださり、子供たちの発表や、野外コンサート、沢山の模擬店で賑わいました。

7時 分に頂上広場に集合。

中岡さんが運んでくださった道具類（薪、かまど、ダッチオーブン、はかり等）を積み下ろしました。

その後、テント内でのパネル設置、販売所設置、かまどの設置などめまぐるしく動きました。

時に焼き芋の販売開始。

時と 時 分に自然観察会。（井奥さんと中西さんが講師を努めてくださり、二回開催。）

3歳児から大人までたくさんの方々の参加がありました。





時に焼き芋終了。

5時までに火の始末を終えました。

再び、中岡さんの軽トラで山内まで運び、道具類の片づけを行いました。

今回の売上は、5円でした。

井奥さんが持ってきてくださった山野草（ナギナタコウジュ・シャクチリソバ・クコ・ヤマシロギク・ノコンギク・ミズヒキ・イタドリ・ツリフネソウ・ヨシノアザミ・コノシロセンダングサ等）と趣きある花器が、稼働市販の腕前をもつ岡本さんの腕前で美しくレイアウトされ、私たちのブースを彩ってくれました。

前日には、井奥、澤田、嶋村ご夫妻、品川、中岡、槇野で、道具の準備を行いました。

（参加者：井奥、漆畑、中岡、嶋村ご夫妻、真壁、品川、高田、田中、澤田、槇野）

11月10日（木）タマネギの植え付け

山内の畑、この間までさつまいもを植えていた場所に玉葱の苗（本）を植えました。

日差しがあり月とは思えない暖かさの中、約一時間半の作業でした。

以前に植えた苗もしっかり立っていました。

マルチの穴から出ている小さな小さな雑草も、手分けして抜きました。

（参加者：嶋村さんご夫妻、槇野）



11月23日（水、勤労感謝の日）チップパーのテスト、演習林での作業など

木材チップパーを製造する国内メーカーのひとつ、株式会社大橋に依頼したところ、同社の機材の一つを試用させていただくことになりましたので、まずそのテストを行いました。

遠路遙遠佐賀県からトラックで運ばれてきたチップパーは、（少々拍子抜けするほど）コンパクトなものでしたが、様々なサイズの間伐材をそのガソリン動力でみるみるチップとして粉碎していきます。

レンタルする際の費用などの問題はありますが、マシンそのものは素晴らしく、我々の目的にもバッチリ適合するものだと思います。

使い方、メンテナンスの方法、各種注意事項、(レンタルする際の)運搬方法などレクチャーをしていただき、同社がそのユーザーと共有おられるチップの様々な活用事例についてもご説明いただきました。

(資料を頂戴しておりますので、希望される方はお申し出ください。)

翌日は京都でデモンストレーションがあるという大橋の担当者氏を見送り、我々は演習林に移動。

(言い忘れておりましたが、チップのデモンストレーションは演習林ではなく、近くの田んぼのあぜ道をお借りして行いました。自走式とは言え、短時間の試用の為に、チップを演習林まで運ぶのはちょっと面倒だったので)

演習林では、できたてホヤホヤのチップを試しに道に撒いて整地してみたり、椎茸の採集、井奥さんに即席自然観察会をしていただいたりと楽しい時間を過ごしました。



11月27日(日)『まなびの日』

先日の「ナチュラルブレイク」でさつまいもの在庫が払底してしまった為、今年の「まなびの日」では焼き芋販売は実施せず、井奥さんが中心となって開催しておられる「どんぐりのトトロづくり」ブースのお手伝いしました。

(井奥さんは、小学校低学年向けには「ワクワクおもしろ科学教室」、小学高学年対象に「土曜講座 理科・環境」等の講座を開催されるなど、子供たちやその保護者に、橋本市の自然環境の豊かさや魅力を伝える活動をしておられます。)

今回は終日雨にもかかわらず、朝から終了間際まで、並ぶほどのたくさんの子供たちがやってきて、終日大盛況でした。

「どんぐりのやじろべえ」で、支点・重心・ふりこの原理を学んでもらうのを狙っていましたが、どんぐりのトトロが可愛く、ほと



んどの子供たちは「どんぐりのトトロ作り」を選び、たいへんな時間がかかってしまいました。

今後、若い世代の活動参加を勧誘するために、子供向けのイベント開催や親子参加の活動を増やすことも考えて、当会の活動を進めていくことも大事だと感じます。

今年は焼き芋のブースが出せないで終わりましたが、市や公民館、他の団体へは会活動のPRもできたのでは...と思っています。

(参加者：榎野、澤田、嶋村、中矢)



12月18日(日) 演習林での定例活動

暖かい晴天のもと、椎茸のホダ木用にAゾーンのコナラを本伐採しました。

まず目的の木に辿り着くため下刈りを1時間程度行いました。

その後中岡さんの指導のもと嶋村さんと中矢さんがチェーンソーを使って伐採しました。

木が倒れる瞬間は何度見ても緊張します。

倒した木の玉切りは次回の活動に行くことになりました。

(参加者：中岡さん、嶋村ご夫妻、中矢さん、山岸さん、澤田)



12月28日（水） お餅つき

好天と、年の瀬とは思えない穏やかなお天気にも恵まれ、今年（ 6年）新装オープンしたばかりの山田公民館調理室をお借りしてお餅つきを行いました。

早朝から用意してくださった皆さんのおかげで、今回も美味しいお餅が出来上がりました。

出来上がったばかりのお餅をいれたお汁粉をいただき、しばし歓談の後、 6年最後の活動はお開きとなりました。



1月15日（日） 演習林での作業、新年会

新年初めての作業「ふるさと演習林での下刈作業と、林業の専門家による「チップパーによる枝葉の粉碎作業」が実施されました。

榎本さんには、本業の機械を提供いただき、我々が伐採や刈り取った不要木や竹などを、瞬く間にチップにしていただき、見る見るうちに明るい山になりました。

参加者一同、大いに達成感を味わう活動になりました。

この後クラブハウスにて新年会が開かれ、中岡さん提供の「とりことやの無農薬米」のご飯と無農薬野菜を使った豚汁などの御馳走をいただきました。

たいへん美味しい料理で、新年にふさわしい集いになりました。

振り返れば、 年 月頃の演習林Cゾーンのヒノキ山は、台風で多数のヒノキが倒壊して荒れ、倒木の中に竹が侵入し、更にコジイやアラカシ、ナナミノキなど照葉樹が大きくなり、放置された荒れた里山になっていました。

小雪の舞う中での初仕事で竹の一部を切り始めた後、



5月には元気なヒノキを残し、竹や照葉樹を皆伐し、その後、6月には作業道や観察路など道づくりを行いました。

年月6日、ユンボで市道際の整備するとともに、里山再生の専門家・麻生さんからの意見も聞き、将来の山の姿を落葉広葉樹の森にしていこうと、目標を立てました。

6月には、道路際の植樹が完成した後、榎本さんには、傾いた木の伐採や下草刈りなど、たいへんな労力と専門技術の指導もいただきました。

年、年、5年、6年と演習林では、機械による薪づくりのイベントや、擬木による階段整備、自然観察会、高校生によるボランティア体験、マツタケの再生事業などしましたが、肝心の森を育てる事業は、少し遅れたように思います。

今後、地拵えのあと、木の植え付け、下刈り、除伐、つる切り、枝打ち、間伐と、豊かな森づくりには、多大な労力と時間が必要になります。

我々の後を継いだ方々が、5年～6年かけて育てた美しい木を伐りだす夢を、ぜひ皆さんと一緒に見ましよう。今後も、仲間や後継者を育て、力を合わせていきましょう。



【新年会のお料理メニュー】

底冷えのする大変寒い日になりましたので、暖かい豚汁で、演習林で初作業された方々をお迎えしました。

豚汁（ 人分） 6センチの鍋一杯になるよう材料の分量は適宜にしました

材料：豚・大根・人参・玉葱・白菜・カラシナ・生椎茸・蒟蒻・揚げ・味噌（麦味噌7、コメ味噌3）・

土生姜・粉末だし（きびなご・かたくちいわし・うるめいわしの粉末）高知県産

作り方：最初に、いちよう切りにした大根と人参を、大鍋で柔らかくなるまで煮る。

生椎茸（演習林で収穫した立派な椎茸7本）と、カラシナ、豚を残して適宜に切った材料を足し、柔らかくなったところに、センチ幅に切った豚肉を炒めてから、生椎茸と入れ、煮立ったら粉末だしと味噌で味付けをする。

甘みが出るように玉ねぎを使ったので、最後にざっくり切ったカラシナを彩りに散らし土生姜を擦って入れた。大鍋の豚汁は完食！嬉しい。

大根と人参の煮物

材料：大根・人参・土生姜・粉末だし

作り方：大きくそぎ切りにした大根と人参を軟らかく煮て、砂糖と濃い口醤油で味付けする。

粉末出汁は多い目に入れる。水分が少なくなるまで煮含める。

最後にたっぷり土生姜を擦って入れた。

壬生菜の炒め物

材料：壬生菜（中岡さん畑で採りたてを使用）・なたね油・ハーブソルト・青じそ醤油少々（手作り）

作り方：豚汁の豚を炒めた後の鍋に、なたね油を少し足し、～5センチに切った壬生菜を入れ、ハーブソルトと、青じそ醤油・濃い口醤油で味付けしてさっと炒める。仕上げに土生姜を擦って入れる。収穫間がない壬生菜は多く水分が出て調味料とよく合った。

高菜の塩付け（保存食）

昨年の春、兵庫県の従妹が塩付けした無農薬の高菜を塩出しして出す。

【好評を博した大根の壺漬け】

材料：大根 kg、醤油 cc、酢 cc、砂糖 5 ~ g、生姜、鷹の爪、昆布、煎りゴマ、梅干し（個）、鰹節（袋）

作り方：大根はいちょう切りにし、塩をまぶして暫く置いておく。水分が出たらしっかり絞る。調味料を沸騰させ、生姜（千切り）と大根を入れ弱火で5分ほど煮て、しばらくしてからザルにあげる。再度煮汁を沸騰させ、昆布（千切り）、鷹の爪（細かく輪切り）を入れ、5分ほど煮て冷ます。ここに大根を入れ、暫く漬けておく。ざるにあげ、ボールに入れたところに煎りゴマ、鰹節、梅干しを入れると一層美味しい。

1月28日（日） ボランティア体験フェア

橋本市社協主催のイベント、『ボランティア体験フェア』に参加し、パネル・プロジェクター等を用いた展示を行いました。

さまざまな団体による展示、ステージ発表が行われ、大変盛況でした。

全体で 名を超える参加者があり、特に中学生・高校生といったお若い方が（運営のお手伝いを含めて）多く参加・協力してくださっていました。

当会のブースにも多くの来場者があり、展示内容はもちろん(?)のこと、井奥さんが用意してくださった生花・山野草の華やかさに多くの好意的なご感想をいただきました。

活動に興味を持ち継続的に活動の案内を欲しいとお申込みをくださった方もありました。

漆畑さんの朗読ボランティア、高田さんの踊りなど、当会メンバーの「いつもと違う顔」を拝見できたのも楽しかったですね。





2月19日（日） 演習林作業

まず午前中は榎本さんが中心となって管理されている山林を見学させていただきました。

この山林は隅田町霜草にあり、自動車を止めた場所から、更に山間の隘路をてくてく歩いてアプローチする必要があります。

しかし、そのように狭い道を、道具・機械類・軽自動車をやすやすと通す榎本さんたちは流石プロだな...と早速感心させられました。

お使いの道具も、僕にはよくわからないが、とにかく大きく、本格的なものばかり（材木を運搬するウィンチがリモコンで作動するのは驚きました。）

また、榎本さんたちの連携も見事で、圧倒されっぱなしの数時間でした。

なかなか難しいでしょうけれど、ちょっとでもああいう感じになっていけるといいですね。

御親切に植樹用の苗木まで頂戴してしました。

ありがとうございました。

クラブハウスに移動してお昼ごはん。

暖かい汁物をいただきました。

午後からは、演習林に移動し、前月にきれいになったフィールドに、早速、榎本さんからいただいたばかりの苗木を植林しました。

2月28日（火） 福寿草観察会

早春の晴れ渡った快晴の今日、井奥さんの案内で奈良県西吉野町津越にある「福寿草自生地」観察会に6名の参加で出かけました。

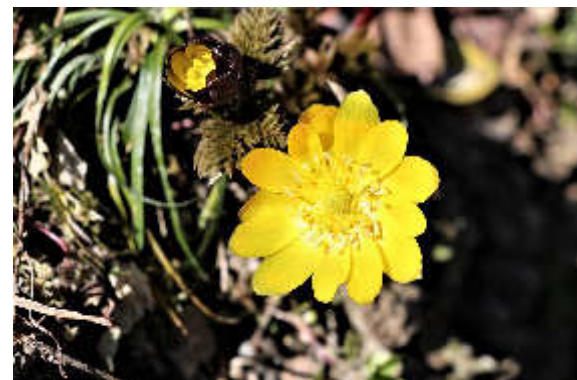
あやの台のオークワ駐車場9： 集合で井奥さんの車で出かけました。

現地到着は 5頃で途中車を止め「福寿草自生地」まで歩くことにしました。

約 キ口の道のりを井奥さんの草木の説明を聞きながら散策です。

ようやく「福寿草自生地」に到着しました。たくさんの福寿草が早春の光を浴び綺麗に咲いていました。

自然にこんなに多く咲いているのを目のあたりに見たのは初めてです。



ちょっと感動ですね。

その周辺ではまだ早い梅がチラホラと咲き始めていました。

青空いっぱいの小高いところでの昼食は最高においしかったですね。

そこを後に「賀生梅林」の資料館に立ち寄り目の前が有名な「賀生梅林」でしたが、まだ 分咲きなので寄らずに次の目的地まで走りました。

五条市にある登録有形文化財「藤岡住宅」に立ち寄って見ました。

藤岡家は江戸時代の庄屋屋敷で薬商。

年半の修復の後平成 年 月 日より公開。

展示内容を ヶ月毎に入れ替え所蔵資料を展示しています。

そこを、 分ほど見学しながら無事に帰ってきました。

今日は楽しい一時を過ごさせてもらいました。井奥さんには一人で車運転していただき、いろんな説明までしてもらいありがとうございました。



3月4日（土）、5日（日） 『公民館まつり』

毎年恒例、「公民館まつり」に出展し、中央公民館 階の会議室を使ってパネル展示、プロジェクターを使った活動の紹介などを行いました。

初日（ 日）の様様としては、中々の盛況だったと申せましょう。

用意した60本ほどの椿木は正午過ぎには無くなり、井奥・嶋村夫妻が追加用意の為に山内フィールドに走り、翌日分も含めた本数を整えました。

子供連れや昨年来の「リピーター」もおられ、TDL やUSJ の如く固定ファンが付いたようにも思われました。展示物のみという形式ではなく、実作業を伴っている「動きのある」部屋が関心を呼んでいたように見えました。井奥さん用意の春の草木が室内に春の彩りを添えてくれました。

翌5日も引き続いて盛況。

「天気晴朗波高しならぬ花粉多し」で花粉症人間には些かしんどい気候ではありましたが、早春の暖かさに誘われたか、入出は昨日の土曜日より数段多く、当会展示室も終日盛況裏に過ぎました。



「椎茸植菌実体験」は更に人気を博し、昨日を上回る約80本を消化。

終了予定時刻(4時)の 時間程前に材料切れ品切れになってしまいました。

また、「店番」をされていて、シイタケ以外にも展示絡みでは「橋本のツバメ観察報告」や野鳥観察への 質問も多く、山内里山活動へのお尋ねも多かったと感じました。

中身の濃い内容のある新鮮な展示報告はやや地味でも関心ある方の興味を惹きつけるのでしょうか。

次回は「シイタケ体験」の準備を一回り大きくすることも要検討でしょう。



3月18日(土) 『わかやま NPO フェア』

わかやま NPO センター主催のイベント、『わかやま NPO フェア』に出展してきました。

会場となった『ビッグ愛』(和歌山県民交流プラザ、和歌山市手平)の隣、『ビッグホエール』では、ちょうど「コブクロ」のファンイベントが行われるという、悪い(?)タイミングと重なってしまいました。

大阪からの阪和線車中にはコブクロのグッズを持ったファンがちらほら。

お昼頃和歌山駅に到着しましたが、駅からビッグホエールまでの沿道にはコブクロのファンイベント告知のフラッグがたてられ、同イベントは 5時半スタートにもかかわらず、既にかなりの人混みでした。

時頃から、和歌山市内が一望できる(もちろん、コブクロイベントに集う人々も)9階会議室でパネル展示が始まりました。

和歌山 NPO センターの展示のほか、出展しているのは当会と『特定非営利活動法人 和歌山盲ろう者友の会』(http://jimo-ok.jp/moo-a/)のみ。

NPO センターの担当者氏も「いろいろとイベントと重なってしまっ」と恐縮されるほどの出足でしたが、第九回商店街映画賞で大賞を受賞した短編映画『替わり目』(和歌山で活動するアマチュア落語団体、わかやま楽落会。この会で落語家として活動する三太は人生で初めての恋を経験する。商店街で生まれた恋は仲間たちの助けであらぬ方向へと展開する。社会人になってから始まる友情、そして恋。そんな人生の替わり目がやってくる。)を見たり、志場さんの講座に参加したりと、実りも多かったと思いますね。

隣にブースを構えた(二団体しか出展していないのですから、どうしたって「隣」にはなるわけですが)『和歌山盲ろう者友の会』の方から、盲ろう障害のお話を聞かせていただいたのも印象に残りました。



全国には 人（調査によっては 人されているものもあるが、後述のとおり、役所の届け出をしていなかったり、「ひきこもり」状態で生活されている方が少なからずあり、「実数」の把握はなかなか困難なのが実情のようです）和歌山県下には約 人の盲ろう障害を抱えた方がおられるそうですが、そのうち、和歌山盲ろう者友の会が関わりを持っているのは1 / 10以下。

それ意外の大部分の方は家庭にひきこもったり、社会と関わりのない状態で生活しておられるとみられる、とのことでした。

同協会では、盲ろうの方の日常のお手伝い、介助者・通訳者の養成、さおり織り工房の運営などを行っておられます。

コブクロイベント終了と重ならないよう、16時過ぎにはあちらより一足早く散開しました。

3月19日（日） 定例活動

主に椎茸のホダ木づくりをやりました。

9時に演習林に集合し、まず、事前に伐採して下さっていたコナラの木（2本）を玉切りにしました。

しかる後、ドリルで種菌ペレットを埋め込む穴を開けようとしたのですが、バッテリー式のドリルはどうも力不足でうまくいきません。

そこで、クラブハウスに移動し、今度はコンセントから直接給電するドリルを使うとバッチリでした。

皆で夢中で作業すること約一時間。

時には全てのホダ木に種菌を埋め込むことができました。

（参加者：井奥、梅谷、木村、澤田、嶋村勝、中岡、真壁）



私たち里山保全アクションチームの生みの親・育ての親である重松敏則先生が、昨年8月22日に逝去されました。

当会が発足して間もなく先生のご勤務の事情で九州の地に去られてからも、名誉顧問としてずっと私たちを支え、ご指導下さいました。近くに来られた折には、必ず山内演習林や芋谷の棚田を訪れてくださり、種々ご指導や励ましをいただきました。

先生の数々のご指導に感謝申し上げますと共に、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

重松先生と私たちとの出会いは、当会の発足の約2年前に遡ります。

いわゆる「高度経済成長期」から「安定成長期」(90年代後半～90年代初頭)の流れの中で、宅地や工場・道路等の造成のために、市内(特に紀の川北岸)の丘陵地帯が次々と削られ、露出した赤土が瞬く間に拡大していきました。それは大昔から人びとが育てあげてきた雑木林やアカマツ林などの、農耕や日常生活と切り離せないものとして存在してきた里山を破壊する結果となりました。それに疑問を感じたり、何とかしたいと考える者たちが集まって「ふるさとの自然を考える会」が結成され、その活動が新聞の和歌山版に掲載されたりしました。

橋本市に転居されてきた重松先生(当時大阪府大)先生がそれをご覧になり、以後この会合に出席して下さいようになりました。

その中で、先生が構想されていた全国的な合宿研修会を当橋本市で開催する方向が決定され、事前に杉村公園(山彦寮)での2泊3日の試行合宿活動を経たのち、「里山保全ワーキングホリデー」の取り組みが本格化して行きました。

紀見地区公民館で毎週のように会合を重ね検討を進める中で、新しい組織として山林・棚田での活動に特化した新しい組織を立ち上げる方が良いのではないかとこの声が上がリ、1993年発足総会が開かれました。

重松先生ご提案の「はしもと里山保全アクションチーム」の会名が全員一致で賛同され、当会は発足しました。

翌年夏、里山保全活動発祥の地イギリスで客員研究員として滞在されていた折に重松先生が交流された有名な環境保全団体BTCVからの5名の方を含めて、全国各地や近辺からの延約60名の参加者を迎えた『日英合同・第1回里山保全ワーキングホリデー』を主催し、成功させることが出来ました。この取組途中の94年春に重松先生は九州芸術工科大教授に就任されましたが、期間中はずっと当地に滞留され、会を成功に導いて下さった後に福岡県に転居されました。

私達のアクションチームが発足した当時、「里山」という用語は『広辞苑』にも載っていませんでした(外部の会合に出たときに「はしもと『山里』保全アクションチーム」と紹介されたこともありました。)『里山』という用語をつくり出し、それを全国に普及させた先進的な学者たちの先頭に、重松先生は居られました。

その上、先生は学者としてだけではなく、市民による里山保全活動を実践するという先頭にも立って、その生涯を全うされました。

九州大学大学院教授として定年退職された後も含めて、北九州の地でも幾つもの里山保全活動やNPO活動を展開し続けられました。

その最初のお仕事として、私ども「はしもと里山保全アクションチーム」を立ち上げ・主導して頂いたことに対し、私たちは大きな誇りと感謝の念を抱かずにはおれません。

重松先生、本当に有難うございました。

先生のお教えを受け継ぎ、微力ながらも、これからも里山を守る努力を続けてまいります。

里山賛歌

作詞・作曲 重松敏則

ヤマザクラ咲き、雑木の萌えるころ 里山に 春はめぐりくる
今は暗く 生い茂るけれど ぼくは見たい そんな春景色 君も行こう あの森の道

アカマツ林 ハルゼミ鳴くころ 里山に 初夏はめぐりくる
今は暗く 生い茂るけれど ぼくは聞きたい 季節の風物詩 君も行こう あの森の道

クヌギの木陰 クワガタ探すころ 里山に 夏はめぐりくる
今は暗く 生い茂るけれど ぼくは訪ねたい 思い出の林 君も行こう あの森の道

アケビ熟し ドングリ落ちるころ 里山に 秋はめぐりくる
今は暗く 生い茂るけれど ぼくは辿りたい 紅葉の林 君も行こう あの森の道

木枯らし吹き 霜おりるころ 里山に 冬はめぐりくる
今は暗く 生い茂るけれど ぼくは感じたい 季節の息吹 君も行こう あの森の道

薪づくり 炭焼くころ 里山に 季節はめぐりくる
今は暗く 生い茂るけれど ぼくは伝えたい そんな暮らし 君も行こう あの森の道

川も海も 清らかなころ 自然はめぐり 幸にあふれた
今は汚れ こわされたけれど、ぼくは戻りたい 思い出の景色 君と開こう 未来への道

君と開こう 未来への道